

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300037		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	徳島県小松島市中田町字新開52番地		
自己評価作成日	平成21年11月7日	評価結果市町村受理日	平成21年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3690300037&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成21年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内での勉強会や外部での研修に積極的に参加し、認知症ケアに対する知識や技術を全員が学び、ケアに活かすよう取り組んでいる。入居者が積極的に外出できる機会を設けている。立地条件がよい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地に位置し、周辺には大型スーパーや医療機関、交番、公園などがある。管理者や職員は恵まれた生活環境を日頃の活動に活かし、利用者の意向に配慮しながら外出を支援するなど、一人ひとりが地域の中で充実した生活が送れるよう努めている。また、「利用者の尊厳を守る」ことを理念に謳い、日々の関わりの中で、穏やかな言葉かけや節度ある態度を心がけ、職員相互で確認し合ったり、他事業所の事例を基に勉強会を開くなど、サービスの質の向上に向けて全職員で取り組んでいる。ホームは清潔で明るく、陽だまりを感じさせるフロアでは窓からの初冬の風景を楽しむ利用者や気の合った同士が談笑されているなど、ゆったりとしたアットホームな雰囲気が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を共有し、言葉かけや態度、安全に配慮し、お互いに日々の支援の中で話し合っ実践に活かしている。	利用者が地域で安心した暮らしを継続できるよう、管理者や職員は日々話し合い、理念を共有するとともに、具体的なケアの意見統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎年、保育園児の来訪があったり、地域の行事に参加したりしている。今年は新型インフルエンザの影響で実施できていない。	新型インフルエンザ感染予防のため、ボランティアの来訪を若干規制しているが、近隣の保育園や地域の老人会等とは、いつでも交流を再開できるよう連携を図っている。文化祭や菊花展など地元の催しにも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の会長と協力し、地域の人に対して認知症についての理解を深めてもらえるよう検討し、取り組みにつなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の運営状況やサービス、取り組み等を報告し、意見などを聞いてサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議では、事業所から日常生活状況や運営課題等を報告したり、メンバーから率直な意見をもらったりしてサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の職員に事業所の取り組みを積極的に伝えたり、わからないことや困ったこと等を相談したりしている。	日頃から事業所の取り組み状況を報告し、市の担当職員とは気軽に相談できる関係を築いている。新型インフルエンザ感染予防に関する最新情報やアドバイスをもらうなど、運営上の課題について前向きな取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の声かけの中にも言葉による拘束がないかを日常業務の中で話し合っている。日中は廊下から玄関に出るドアは開錠している。身体拘束についての勉強会を実施している。	管理者と職員は身体拘束の弊害を認識し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。「言葉による拘束はないか」を当面の課題として、日々のケア場面で話し合っている。しかし、玄関は外からは自由に入れるが、中からは自由に出られないようになっている。	安全で自由な暮らしを支援するためにも、見守り体制等を工夫して自由に出入りできるようにするなど、さらなる取り組みが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が身体的暴力や言葉の暴力がないようお互いに気をつけ、虐待についても勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターから来ていただき、権利擁護についての勉強会を開催した時に成年後見制度についてもお話してもらったが、職員もまだ理解が十分ではないので勉強をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬や制度の改正、介護度が上がって利用料が増加する時には、書面でお知らせしたり、面会時や個別に電話で説明したりしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に地域包括支援センター、市介護保険課、国保連の連絡先を記入している。玄関に外部の苦情相談窓口のポスターを掲示している。意見箱の設置もしている。	面会時や家族会の際には、利用者や家族の思い、気付き等を気軽に伝えてもらえるような雰囲気づくりに配慮している。出された意見や要望等は職員間で話し合い、早期に運営へ反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の要望や意見など聞くようにし、対応可能なことは反映させている。	代表者や管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切にし、ミーティングや会議、勉強会では積極的に意見を出し合い、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週1回現場に来ており、勤務状態などの把握に努めている。年2回健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはできるだけ参加してもらっている。また、内部研修は業務終了後に勤務者以外参加してもらっている。新任職員は業務の中で知識や技術を学んでもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業などに参加し、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時には慣れない所での生活に不安があることを理解し、困り事や心配などが無いかを聞いている。相談などあればゆっくりと話を聞いて、本人との信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には家族の思いや要望、状況などを聞き、事業所としてどこまで対応できるかを説明し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には本人や家族の状況や思いを確認し、利用者にとってどういう支援が必要なのかを見極め、サービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに共感し、理解できるように努めている。場合によっては利用者に職員が癒されたり、共感してくれたりしている。利用者に教えられることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、「青空通信」と生活の様子をお知らせする手紙を送付している。面会時には、普段の生活の様子をお伝えしたり、また、家族から気づいたことなども聞いたりして本人の支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用している美容院や喫茶店などへ行きたいといった希望がある時には出かけている。	職員は利用者の価値観や生活習慣を大切にし、馴染みの美容院や喫茶店の利用、友人のお見舞いに付きそうなど、一人ひとりの希望に応じて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事、レクリエーションの時間は職員も一緒に楽しんだり、会話を持つなど利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。人間関係を把握し、お茶や食事の時等は配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居し、新しい住まい(他施設など)に行かれる時は今までの暮らしの情報を提供し、ケアが継続できるよう入所先と連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族等に聞き、本人本位に検討している。	職員は日々の関わりの中で、利用者が何を大切に生きてこられたか、今したいことは何かを念頭に置いてコミュニケーションを図り、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや本人との日々の会話の中から、どんな生活をしてきたのか等の把握に努め、本人を理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態や生活リズムの中からできること、できないこと、本人がどのように1日を過ごしたいのか等を把握し、本人の不利益とならないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の方の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。意見を聞くことができない時は、本人本位に検討し、介護計画を作成している。	利用者や家族の意向、要望、ミーティング等で話し合った職員の意見等を反映し、本人本位の介護計画を作成している。目標の達成状況も記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で食事や水分量、排泄など身体状態を一目でわかるようにしている。ケア記録は、本人の日常の様子がわかるような記録をして情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状態に応じてよく話し合い、必要な支援は柔軟に対応し、満足していただけよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーやボランティアに来てもらい、情報交換したり、行事を盛り上げてもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。病院への受診が必要な場合は、家族と連絡を取り同行してもらっている。薬の受け取りだけの場合などは、職員が同行している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は原則として家族に同行してもらい、内容や状態によっては職員が柔軟に対応し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいない時間は介護記録をもとに確実な申し送りを行っている。また業務日誌で利用者の状態を知り、少しの変化にも気をつけ、早期発見に努めて報告し、適切な指示が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホーム入居時の支援等の情報を提供している。また、ホームに帰ってくるのが無理と判断した場合、退院後のことについては主治医と相談し、本人や家族が不安のないように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針は、家族や主治医と相談しながら対応を決めている。また、事業所でできることも入居時にお伝えしているが、長期入居されている方とは十分な話し合いは行われていない。	重度化した場合や終末期における事業所の対応については、利用者や家族、主治医等と入居時に話し合って合意を得ている。しかし、取り組みを始める前に入居された利用者や家族とは、機会あるごとに随時話し合っているが、十分とは言えない。	利用者や家族の意向、事業所が対応できる範囲で支援方法等を踏まえて、今一度、関係者全員で話し合うなど、方針の共有を図られたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新任職員には消防署へ行き、救急救命法について勉強してもらっている。防災訓練と一緒に消防署から人形やAEDを借りてきて訓練している。また、1年に1回、消防署の協力を得て急変時に対応できるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員や利用者参加で2か月に1回、防災訓練を行い、また夜間を想定した訓練も行っている。消火器の使用法、避難経路の確認などを行っている。1年に1回、消防署の協力を得て防災訓練を実施している。	マニュアルを作成して2か月に1回、利用者と一緒に防災訓練を行なっている。毎年、消防署員の協力を得て、夜間を想定した避難訓練や救急救命法の勉強会なども実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳やプライドに配慮しているが、トイレの声かけ等の際には、できていない時も少なくないので職員間で話し合い、言葉かけに気をつけている。	利用者の尊厳を守るという理念に基づき、職員は優しい声かけやさりげないケアを心がけ、入居者の表情は明るい。個人情報の保護方針や利用目的を明文化し、責任ある取り扱いを行っている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に合わせ、意思決定できるよう日常生活の中で場面づくりをしている。言葉では十分意思表示できない人の表情や反応を見て、その思いをくんでいないのではないかと思う場面もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や行事の時には、入浴などスタッフの都合で決めていることも少なくないが、一人ひとりの体調に配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時などには本人と一緒に洋服を選ぶなどしている。帽子の好きな人には自分の好きな帽子を選んでもらっている。また、美容院も馴染みの所へ行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いを手伝ってもらったり、近くの魚屋さんに魚をとりに行き、昼食や夕食の食材に使うことを伝えている。	利用者と職員はともにメニューを考えたり、食材の買出しや調理の準備、食器洗い等を楽しんでいる。食堂では懐メロが控えめな音量で流れ、利用者と職員は同じテーブルで和やかに食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量をチェックし、把握している。摂取量が少ない時は本人の食べられそうな物やスポーツドリンクなどで補っている。個々に合わせた食事量にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行い、個々に合わせた支援を行っている。義歯の取り外しを他人に介助されるのを好まない人には、自分で取ってもらえるよう声かけを行い、外してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て定期的にトイレ誘導を行い、スムーズに行えるようにしている。紙パンツやパットは、個々に合わせて使い分けしている。食後や外出時、帰居時にはトイレへの声かけを行っている。	職員はチェック表で排便・排尿の確認を行い、個々のパターンを把握している。また、さりげなくトイレ誘導を行なうなど、本人のプライドに配慮しながら自立に向けた取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で毎日排便の確認を行い、個々に応じた周期を把握し、必要とされる時は緩下剤で調整している。食事は野菜を多く取り入れ、毎朝牛乳も飲んでもらっている。また、毎朝体操をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中はできるだけ本人の希望にそって入ってもらっている。男性職員の介助を嫌がる人は女性職員が介助している。入浴中は昔の話をするなど会話を楽しみながら入られている。個々に合わせた湯加減としている。	利用者の生活習慣や希望にそった入浴を支援している。一人または友人同士で入浴される場合でも、常に職員を近くに配置するなど、安全面に配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームで用意している枕が合わない方は自分の枕を使用されている。居室温度の調節や就寝前のトイレ誘導などを行い、ゆっくり休めるようにしている。冬場に足が冷える人には、湯たんぽを使用している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬説明書をホールに置いて、いつでも必要な情報が得られるようになっている。また、ケース記録にも綴じている。職員は日ごろの状態の把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーめくりができる人、食器の洗い物ができる人、洗濯物たたみのできる人、それぞれに応じてしている。感謝の言葉をかけている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ごみ捨て場にごみを出しにいった時は、近くを散歩して帰ってくる。本人の希望で行きたい所があれば出かけている。梅や桜の花見に行く時などお弁当を作って出かけている。車いすやシルバーカーの方も出かけている。	一人ひとりの希望や能力にあわせて食材の買い出しやゴミ出しを手伝ってもらったり、近くの遊歩道で車いすやシルバーカーの方と一緒に散歩を楽しんだりしている。気候のよい日には阿波踊り会館や徳島新聞社、四国放送局、公園に出かけるなど利用者の意向にそった外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くの魚屋に魚をもらいに行った時等、果物など欲しいものがあれば買って自分でお金を払ってもらっている。自分の欲しいものがあればスーパーに行って選んでもらっている。小銭は自分が持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階ホールに公衆電話を設置している。携帯電話を持たれている方もおり、自分で発信している。電池の充電の確認をしたりしている。暑中お見舞いの絵葉書などを作る支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に植物を置いている。廊下には外出や行事の写真を貼っている。入居者同士で写真を見て話をされている。各室にエアコンを設置し、冬場には個々にあった温度設定を行っている。5月には鯉のぼりや五月人形、3月にはひな人形などを飾っている。	共用空間は清潔で明るく、陽だまりのような温もりが感じられる。利用者は日中、フロアに集って窓外の桜の落葉を楽しみながら談笑されている。廊下には観葉植物を置き、行事や外出時の写真、利用者の作品等を掲示するなど、居心地よくアットホームな雰囲気づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間は一体的な造りで、ソファーを置いているので食後にくつろぐ人やテレビを見ている人がいる。また、テーブルでは仲の良い人同士で話をしている。時々、ソファーの位置を変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していたものを持ち込まれている。居室には自作のカレンダーや家族の写真などを筆筒の上に置くなどしている。	居室にはソファーや冷蔵庫、写真など思い出の品々が持ち込まれ、職員は馴染み深い居場所づくりに努めている。また仏壇を祀られている利用者もおられ、一人ひとりの思いや大切なものを重視した取り組みがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの造りは段差のないように作られている。扉に大きな字でわかるように目印をつけている。また、トイレには手すりもついている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を共有し、言葉かけや態度、安全に配慮し、お互いに日々の支援の中で話し合って実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年、保育園児の来訪があったり、地域の行事に参加したりしている。今年は新型インフルエンザの影響で実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の会長と協力し、地域の人に対して認知症についての理解を深めてもらえるよう検討し、取り組みにつなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の運営状況やサービス、取り組み等を報告し、意見などを聞いてサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の職員に事業所の取り組みを積極的に伝えたり、わからないことや困ったこと等を相談したりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の声かけの中にも言葉による拘束がないかを日常業務の中で話し合っている。日中は廊下から玄関に出るドアは開錠している。身体拘束についての勉強会を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が身体的暴力や言葉の暴力がないようお互いに気をつけ、虐待についても勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターから来ていただき、権利擁護についての勉強会を開催した時に成年後見制度についてもお話してもらったが、職員もまだ理解が十分ではないので勉強をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬や制度の改正、介護度が上がって利用料が増加する時には、書面でお知らせしたり、面会時や個別に電話で説明したりしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に地域包括支援センター、市介護保険課、国保連の連絡先を記入している。玄関に外部の苦情相談窓口のポスターを掲示している。意見箱の設置もしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の要望や意見など聞くようにし、対応可能なことは反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週1回現場に来ており、勤務状態などの把握に努めている。年2回健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはできるだけ参加してもらっている。また、内部研修は業務終了後に勤務者以外参加してもらっている。新任職員は業務の中で知識や技術を学んでもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業などに参加し、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時には慣れない所での生活に不安があることを理解し、困り事や心配などが無いかを聞いている。相談などあればゆっくりと話を聞いて、本人との信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には家族の思いや要望、状況などを聞き、事業所としてどこまで対応できるかを説明し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には本人や家族の状況や思いを確認し、利用者にとってどのような支援が必要なのかを見極め、サービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに共感し、理解できるように努めている。場合によっては利用者に職員が癒されたり、共感してくれたりしている。利用者に教えられることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、「青空通信」と生活の様子をお知らせする手紙を送付している。面会時には、普段の生活の様子をお伝えしたり、また、家族から気づいたことなども聞いたりして本人の支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理・美容院を利用するなどして、関係継続の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事、レクリエーションの時間は職員も一緒に楽しんだり、会話を持つなど利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。人間関係を把握し、お茶や食事の時等は配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居し、新しい住まい(他施設など)に行かれる時は今までの暮らしの情報を提供し、ケアが継続できるよう入所先と連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族等に聞き、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや本人との日々の会話の中から、どんな生活をしてきたのか等の把握に努め、本人を理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態や生活リズムの中からできること、できないこと、本人がどのように1日を過ごしたいのか等を把握し、本人の不利益とならないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の方の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。意見を聞くことができない時は、本人本位に検討し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で食事や水分量、排泄など身体状態を一目でわかるようにしている。ケア記録は、本人の日常の様子がわかるような記録をして情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状態に応じてよく話し合い、必要な支援は柔軟に対応し、満足していただけよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーやボランティアに来てもらい、情報交換したり、行事を盛り上げてもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。病院への受診が必要な場合は、家族と連絡を取り同行してもらっている。薬の受け取りだけの場合などは、職員が同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいない時間は介護記録をもとに確実な申し送りを行っている。また業務日誌で利用者の状態を知り、少しの変化にも気をつけ、早期発見に努めて報告し、適切な指示が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホーム入居時の支援等の情報を提供している。また、ホームに帰ってくるのが無理と判断した場合、退院後のことについては主治医と相談し、本人や家族が不安のないように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針は、家族や主治医と相談しながら対応を決めている。また、事業所でできることも入居時にお伝えしているが、長期入居されている方とは十分な話し合いは行われていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新任職員には消防署へ行き、救急救命法について勉強してもらっている。防災訓練と一緒に消防署から人形やAEDを借りてきて訓練している。また、1年に1回、消防署の協力を得て急変時に対応できるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員や利用者参加で2か月に1回、防災訓練を行い、また夜間を想定した訓練も行っている。消火器の使用法、避難経路の確認などを行っている。1年に1回、消防署の協力を得て防災訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳やプライドに配慮しているが、トイレの声かけ等の際には、できていない時も少なくないので職員間で話し合い、言葉かけに気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に合わせ、意思決定できるよう日常生活の中で場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や行事の時には、入浴などスタッフの都合で決めていることも少なくないが、朝ゆっくり寝たい人には起きたい時間に起きてもらって朝食もみんなとは別の時間としてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出に着ていく服を迷っている時は鏡の前で合わせてもらって、他の入居者にも見てもらったりして決めている。マニキュアなども塗ってお出かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を切ったり、盛り付けや配膳などもしてもらったりしている。食器洗いも一緒にしているが、洗い直しが必要な時は本人にわからないよう配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量をチェックして、把握している。カレーやシチューなどをご飯にかけるのが嫌いな人には別々にしている。朝食にパンを好む人にはパンとコーヒーを出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人には声かけして行ってもらっている。磨き方がわからない方はそばについて声かけや見守りを行っている。夜間は、できる人には見守りで洗浄剤につけてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て定期的にトイレ誘導を行い、スムーズに行えるようにしている。紙パンツやパットは、個々に合わせて使い分けしている。食後や外出時、帰居時にはトイレへの声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で毎日排便の確認を行い、個々に応じた周期を把握し、必要とされる時は緩下剤で調整している。食事は野菜を多く取り入れ、毎朝牛乳も飲んでもらっている。また、毎朝体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中はできるだけ本人の希望にそって入ってもらっている。男性職員の介助を嫌がる人は女性職員が介助している。入浴中は昔の話をするなど会話を楽しみながら入られている。個々に合わせた湯加減をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれに応じて休んでもらっているが、夜間遅くまで起きていて朝寝坊する人は他の人に無理に合わせず、本人のリズムで生活している。冬場足が冷える人は湯たんぽなどを使用してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬説明書をホールに置いて、いつでも必要な情報が得られるようになっている。また、ケース記録にも綴じている。職員は日ごろの状態の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	拭き掃除が好きな方にはホームの椅子や手すりなど拭いてもらっている。モップで床拭きなどの役割を決めて行ってもらっている。料理の手伝いや洗濯物たたみ、洗濯物干しも行ってもらっている。外出時は行きたい所はないか相談して決めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に希望を聞いて仲の良い利用者同士、外食に行くなどしている。梅見、桜の花見にはお弁当を作って出かけている。お盆にお墓参りに行きたい人は一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買い出しに行き、その時自分の欲しいものを買うなどしている。少額でも自分でお金を持つ事で安心してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階ホールに公衆電話を設置している。自分で、1階まで降りてこられる方は自分で公衆電話を使っている。暑中見舞いの絵葉書作りの支援などをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に植物を置いている。廊下には外出や行事の写真を貼っている。入居者同士で写真を見て話をされている。各室にエアコンを設置し、冬場には個々にあった温度設定を行っている。5月には鯉のぼりや五月人形、3月にはひな人形などを飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間は一体的な造りで、ソファを置いているので食後にくつろぐ人やテレビを見ている人がいる。また、テーブルでは仲の良い人同士で話をしている。時々、ソファの位置を変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していたものを持ち込まれている。居室には自作のカレンダーや家族の写真などを筆筒の上に置くなどしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの造りは段差のないように作られている。扉に大きな字でわかるように目印をつけている。また、トイレには手すりもついている。		